



～『萬葉集』卷第5 「梅花の歌」序文より～



「梅は鏡前の粉を披き
蘭は珮後の香を薫らす」



「初春の令月にして
氣淑く風和ぐ」

通常総会・役員改選

さる四月十日、秋田キャッツルホテルにて、今年度通常総会が開催されました。平成三十年度活動・決算報告、秋曹青創立四十周年記念大会決算報告、新年度活動計画案・予算案が審議され、全て承認されました。

また、任期満了に伴う役員改選が行なわれ、新会長に第十五教区久昌寺住職・赤石基彦師が選出されました。次いで、新会長の推薦により、副会長に第十教区福巖寺住職・栗谷大三師と、第十二教区満蔵寺副住職・黒木淳祐師が就任し、菅原芳徳前会長が新顧問に承認されました。並びに、今期は《お寺のこれから》というテーマで研鑽を深めていく事も承認されました。

当に勤めて



会長 赤石 基彦

第二十期秋田県曹洞宗青年会の会長就任に際し、ご挨拶申し上げます。昨年、秋田県曹洞宗青年会は創立四十周年という大きな節目を迎えました。そのすぐ後の、新たな始まりとなる一期二年間の会長を任されたことを思うと身の引き締まる思いで、その責任の重さを感じております。

今期秋曹青の研修テーマは「お寺のこれから―現代社会における仏教・禅・お寺の可能性と寺院護持―」です。お寺を地域に末永く残していくために、秋曹青会員がそれぞれの場所で実現可能なありかたを見つげるためのヒントを一緒になって学び、気づき合えるような事業・研修を行ってまいります。また任期二年目には「東北地方集會秋田大会」の開催も控えております。東北の青年宗侶が一堂に集う大きな行事にふさわしい規模と内容にて、盛会と

無事円成を目指します。

またもう一つ、今期秋曹青の事業運営・活動全般においてのキーワードとして挙げる言葉は「シェア―共有―」です。情報や学びの共有、ものの考え方や見方の共有、価値観の共有、場と時間の共有等々、今期秋曹青においては会員がそれぞれ「他」と「自」に感謝と敬意をもって何事も分かち合いたい―そう思っております。

秋曹青はこれまで、確かな見識や人徳を備えた会長を中心に、発想力と実行力あふれる有能なメンバーがそろった執行部及び各部により、具体的な活動として事業が企画運営され、青年宗侶がひたむきに様々な経験のできる場を作り上げてきました。ところが今期は、まだまだ見識も人徳も備わっていない私が偶々会長を仰せつかってしまいました。それでも就任した以上は、会の理想の在り方を追求し、会員諸師にとつて常により良き場を提供できるよう、当に自ら勤めて精進する所存です。

皆様からのご法愛とご指導を賜りますよう、二年間どうぞ宜しくお願い申し上げます。

時は流れて



副会長 栗谷 大二

前期に引き続きまして、副会長を務めさせて頂くことになりました。二期続けての大役に身が引き締まる思いです。

最近、青年会の行事に参加いたしますと、自分と一回りも年が違ふ方たちとお会いすることが多くなりました。当たり前のことなのですが、自分も年をとったなあと感じます。私が初めて青年会の行事に参加したのは、十三年前のことです。現在宗門のあらゆる場でご活躍されている諸先輩老師が沢山おられ、恐縮しながら参加させて頂いたことを、昨日のことのように覚えております。そんな私も、青年会員として活動できる時間もあと少しとなりまして。この副会長の役も最後の恩返しだと思つて、精一杯務めさせて頂きたいと思ひます。

赤石会長は、常日頃から、これからのお寺はどうあるべきか、僧

侶はどうあるべきかと考えておられる方です。その想いを研修にした時、私たち若い僧侶の指針となる、素晴らしい研修になるのではないかと思います。少しでもそのお力添えになれるよう努めて参りたいと思ひます。県内ご寺院様、秋曹青会員の皆様、二年間どうぞよろしくお願ひいたします。

自分の番を歩む



副会長 黒木 淳祐

この度、副会長を拝命し、その重責を担わせていただくことになり、身の引き締まる思いです。

昨年、秋田県曹洞宗青年会創立四十周年記念大会が行われました。ご参席いただいた歴代会長諸老師、大会冊子に掲載された諸先輩方のお姿を拝見し、秋曹青四十年の歩みを切に感じる事が出来

ました。同時に、当会が人生のある一定期間しか在籍できない特別な場所であることも実感した次第です。私たち現会員は今まさに、自分の番を歩んでいるのです。

赤石会長が今期に掲げたテーマ「お寺のこれから」は、少子高齢化の先頭を行く秋田県に住む私たちにとって、重要なテーマであると考えます。「終活」、「墓じまい」というワードを紙面やテレビ・インターネットでよく目にするようになりました。「お寺のこれから」について考えることは、歴代住職の守ってきた「お寺のこれまで」を守ることに繋がるはずです。明確な答えを見出すことが出来るのか分かりませんが、二年間に行われる弁道会や随聞会、住職学研修、祈りのつどいや慰霊追悼法要を通じ、腰を据えてお寺の可能性について探求していきたいと思えます。

副会長として赤石会長を補佐し、力を合わせて活動を盛り立ててまいります。共に学び、祈り、現会員として自分の番を共に歩んでまいります。二年間どうぞよろしくお願い致します。

事務局長を拝命して



事務局長 岡部 顕雄

第二十期事務局長を拝命致しました、十五教区龍泉寺副住職・岡部顕雄です。

予てより、赤石基彦師はいずれ秋曹青会長になるべき方であると思っております。師は、有徳の人であり広才博識、そして現代社会への問題意識を強く持つておられる方です。この三つを兼ね備えている青年宗侶は、他になかなかいないと思っております。私とは、年もお寺も近くということ、能力には目を瞑って選んでくださったと思えます。執行部、各部役員には、会長の近隣の会員諸兄が多くいらっしゃいます。師は、いずれの方々も、師の任命とあれば二つ返事で引き受けた方々ばかりです。それは私を含め、師から何度となくお世話を受け、各自報恩の一念が強くあるからです。今期のテーマは「お寺のこれから 現代社会における仏教・禅・お寺の可能性」です。この二年で、明確な

答えにたどり着くことは難しくとも、ある程度の方向性が見つかればと考えております。

来年は、曹洞宗青年会東北地方集會秋田大会の年に当たります。赤石師が会長であり、秋曹青会員の皆様の御力を賜れば、大円成間違いなしと確信しております。至らぬ事務局が最大の懸念材料ですが、副会長をはじめ、今期役員・代議員の皆様へ一つひとつお伺いを立て御指導を仰ぎ、会長の意向に沿うべく、この二年、奉公致したいと思えます。何卒宜しくお願い申し上げます。

通常総会の様子



承認された現執行部



議長の三戸和廣師



司会進行役の鮎川義寛師

平成30年度 秋田県曹洞宗青年会 収支決算書

自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

総収入	2,476,372
総支出	1,869,124
収支残高	607,248

収入の部

単位：円

項目	30年度予算額	30年度決算額	増減	摘要
1 会費	1,175,000	1,527,000	352,000	
1. 年会費	675,000	695,000	20,000	正会員5,000×139名
2. 賛助会費	500,000	832,000	332,000	
2 補助金	500,000	500,000	0	曹洞宗秋田県宗務所様より
3 寄付金	1,000	0	▲ 1,000	
4 雑収入	393	315,765	▲ 315,372	受取利子 8 「創立40周年記念大会」残金 315,757
5 繰越金	133,607	133,607	0	平成29年度分
合計	1,810,000	2,476,372	666,372	

支出の部

項目	30年度予算額	30年度決算額	増減	摘要
1 事業費	1,070,000	1,017,123	▲ 52,877	
1. 研修費	820,000	793,716	▲ 26,284	弁道会、祈りのつどい、 住職学研修 創立40周年記念大会補助、随間会
2. 広報	250,000	223,407	▲ 26,593	会報、WEB運営等
2 事務費	225,000	180,519	▲ 44,481	
1. 事務記録費	40,000	30,820	▲ 9,180	事務用品等
2. 通信費	115,000	91,692	▲ 23,308	郵送料(事業・活動案内発送)等
3. 交際費	50,000	40,000	▲ 10,000	祝賀、添菜
4. 慶弔費	20,000	18,007	▲ 1,993	電報(祝電11件、弔電1件)
3 事務局費	40,000	50,000	10,000	事務機器使用経費
4 会議費	65,000	32,482	▲ 32,518	
1. 総会	35,000	20,000	▲ 15,000	総会補助
2. 役員会	30,000	12,482	▲ 17,518	執行部会、代議員会
5 負担金	190,000	199,000	9,000	全曹青会費、東北地協会費等
6 補助金	200,000	290,000	90,000	全曹青出向補助、東北地協出向補助
7 積立金	0	100,000	100,000	曹洞宗青年会東北地方集會準備金
8 予備費	20,000	0	▲ 20,000	
合計	1,810,000	1,869,124	59,124	

曹洞宗青年会東北地方集會「秋田大会」準備金 H31.3.31 現在

積立金合計	2,723,000
-------	-----------

平成30年度 事業報告

は秋曹青主催事業

日付	内容	場 所	人 数
平成30年			
4月3日	平成30年度 通常総会	秋田市 秋田キャッスルホテル	43名
26日	全日本仏教青年会 仏法興隆花まつり 千僧法要	奈良県 東大寺	7名
5月2日	第1回 代議員会	秋田市 曹洞宗秋田県宗務所禅センター	28名
7日	東北地区曹洞宗青年会連絡協議会 常任・定例幹事会	山形県 山形国際ホテル	6名
18日	全国曹洞宗青年会 定期評議員会	東京都 曹洞宗檀信徒会館	会長・出向者2名
18日	全国曹洞宗青年会 定期総会	東京都 曹洞宗檀信徒会館	会長・出向者2名
6月12日	第32回 弁道会 『出家を問う』 福井県霊泉寺住職 青森県恐山菩提寺院代 南 直哉老師	秋田市 曹洞宗秋田県宗務所禅センター	34名
27日	第2回 代議員会	秋田市 曹洞宗秋田県宗務所禅センター	27名
8月1日～3日	秋田犬こもれび教室2018 ～こども自然ふれあい広場～ 秋田犬とのふれあい・川遊び・寺院体験・キャンプファイヤー 星空ライブ・BBQ・ぎりたんぼ作り・花火 他	鹿角市 圓通寺 中滝ふるさと学舎	28名
27日	秋田県曹洞宗青年会創立40周年記念大会 拡大実行委員会	秋田市 曹洞宗秋田県宗務所禅センター	39名
31日	『曹青秋田』第85号発行		
9月16日	第10回 祈りのつどい	由利本荘市 圓通寺	22名
10月10日	秋田県曹洞宗青年会創立40周年記念大会 ～祈りをつなぎ さらなる明日へ～ 『記念法要』生きとし生けるものの幸せを願う 『記念講演』『正法を問う』～生きる縁となる仏行の可能性～ 上智大学大学院実践宗教学研究科教授 グリーフケア研究所所長 島菌 進先生	秋田市 秋田キャッスルホテル	47名
11月9日～10日	全国曹洞宗青年会『禅文化学林』 全日本仏教青年会全国大会	神奈川県 大本山總持寺	6名
12日	第43回曹洞宗青年会東北地方集会『山形大会』 山形曹洞宗青年会50周年記念事業	山形県 ホテルメトロポリタン山形	16名
22日	第3回 代議員会	秋田市 曹洞宗秋田県宗務所禅センター	23名
29日	全国曹洞宗青年会 定期評議員会	東京都 曹洞宗檀信徒会館	会長・出向者2名
30日	宮城県曹洞宗青年会創立50周年記念式典・記念講演会	宮城県 仙台サンプラザ	2名
12月11日	第4回 代議員会	鹿角市 龍門亭千葉旅館	9名
平成31年			
1月18日	住職学研修 『出家を問う』～われわれ仏道修行者の目指している世界～ 花園大学文学部仏教学科教授 佐々木 閑先生	秋田市 曹洞宗秋田県宗務所禅センター	30名
2月11日	東北地区曹洞宗青年会連絡協議会 常任幹事会	宮城県 仙台市「垂門」	会長・出向者2名
2月20日～27日	第36回 随聞会 『インド仏教遺跡 釈尊六大聖地巡拝の旅』	インド	14名
3月25日	第5回 代議員会	秋田市 センターズ(秋田市役所)	18名
30日	『曹青秋田』第86号発行		

平成30年度 ボランティア活動報告

は秋曹青主催ボランティア活動

日付	内容	場 所	人 数
平成30年			
5月20日～6月10日	秋田県大雨災害(5月18日発生)支援ボランティア 合計12回活動	秋田市内 潟上市内	延べ27名
7月18日	平成30年7月豪雨災害被災地支援托鉢①	横手市 湯沢市(県南)	合計10名
20日	平成30年7月豪雨災害支援募金(梅花流秋田県奉詠大会会場にて)	能代市 文化会館	
22日	平成30年7月豪雨災害被災地支援托鉢②	大館市 鹿角市(県北)	合計13名
27日	平成30年7月豪雨災害被災地支援托鉢③	秋田市(中央)	12名
8月30日	平成30年7月豪雨災害被災地支援活動	愛媛県 宇和島市	3名
9月17日	北海道胆振東部地震救援募金托鉢(秋田市 協心会主催)	秋田市 秋田駅前	4名
9月下旬～10月8日	北海道胆振東部地震救援募金(県内寺院募金箱設置)	県内寺院	
平成31年			
3月11日	東日本大震災慰霊復興祈願法要	岩手県山田町 龍泉寺	8名

令和元年度 秋田県曹洞宗青年会 収支予算書

自 平成31年4月 1日
至 令和 2年3月31日

総収入	2,264,000
総支出	2,264,000
収支残高	0

収入の部

単位：円

項目	30年度予算額	令和元年度予算額	増減	摘要
1 会費	1,175,000	1,155,000	▲ 20,000	
1. 年会費	675,000	655,000	▲ 30,000	正会員 5,000×131名
2. 賛助会費	500,000	500,000	0	
2 補助金	500,000	500,000	0	曹洞宗秋田県宗務所様
3 寄付金	1,000	1,000	0	
4 雑収入	393	752	359	受取利子等
5 繰越金	133,607	607,248	473,641	前年度繰越金
合計	1,810,000	2,264,000	454,000	

支出の部

項目	30年度予算額	令和元年度予算額	増減	摘要
1 事業費	1,070,000	1,050,000	▲ 20,000	
1. 研修費	820,000	800,000	▲ 20,000	弁道会、随間会、住職学研修等
2. 広報	250,000	250,000	0	会報、WEB運営等
2 事務費	225,000	230,000	5,000	
1. 事務記録費	40,000	50,000	10,000	事務用品等
2. 通信費	115,000	110,000	▲ 5,000	郵送料等
3. 交際費	50,000	50,000	0	祝賀等
4. 慶弔費	20,000	20,000	0	電報
3 事務局費	40,000	50,000	10,000	事務機器使用経費
4 会議費	65,000	40,000	▲ 25,000	
1. 総会	35,000	20,000	▲ 15,000	総会補助
2. 役員会	30,000	20,000	▲ 10,000	執行部会、代議員会等
5 負担金	190,000	200,000	10,000	全曹青会費、東北地協会費等
6 補助金	200,000	300,000	100,000	出向補助等
7 積立金	0	350,000	350,000	曹洞宗青年会東北地方集会準備金
8 予備費	20,000	44,000	24,000	
合計	1,810,000	2,264,000	454,000	

尚、各項目間の流用を認めるものとする。

令和元年度 事業・活動計画

は秋曹青主催事業

日付	内容	場所	人数
令和元年度			
4月10日	通常総会	秋田市 秋田キャッスルホテル	
26日	全日本仏教青年会 仏法興隆花まつり 千僧法要	奈良県 東大寺	
5月9日	東北地区曹洞宗青年会連絡協議会 常任・定例幹事会	秋田市 秋田キャッスルホテル	
14日	全国曹洞宗青年会 定期評議員会	東京都 曹洞宗檀信徒会館	
14日	全国曹洞宗青年会 中央研修会	東京都 曹洞宗檀信徒会館	
15日	全国曹洞宗青年会 定期総会	東京都 曹洞宗檀信徒会館	
10月22日	第44回曹洞宗青年会東北地方集会「福島大会」		
	第33回 弁道会		
	住職学研修		
	第37回 随聞会		

※ボランティア活動と代議員会の開催、会報「曹青秋田」の発行は随時行う

第20期 秋曹青役員名簿

〈 執行部 〉

会 長	赤石基彦	15教区	久昌寺
副 会 長	栗谷大三	10教区	福厳寺
々	黒木淳祐	12教区	満蔵寺
監 事	鈴木智之	2教区	東傳寺
々	菊地大樹	6教区	黄龍寺
々	清水道広	10教区	正法院
事務局 長	岡部顕雄	15教区	龍泉寺
事務局 次長	尾久雄人	15教区	能持院
会 計	中村智信	16教区	松雲寺
書 記	土屋泰順	3教区	龍源寺
庶 務	二坂佳邦	5教区	雲岩寺
々	田口真穂	15教区	東光寺
々	柿崎隆仁	5教区	東山寺
々	朽木光哉	5教区	永巖寺

〈 事業部 〉

部 会 長	山田俊哉	9教区	倫勝寺
副 部 会 長	村松玉宗	1教区	源正寺
部 員	三浦大伸	13教区	永源寺
々	渡邊英心	9教区	松庵寺

〈 研修部 〉

部 会 長	菅野紀道	2教区	鷺林寺
副 部 会 長	矢萩宗淳	3教区	慶祥寺
部 員	松山純正	1教区	林清寺
々	本間秋彦	4教区	恵林寺
々	小澤孝全	2教区	天昌寺

〈 広報部 〉

部 会 長	佐々木耕志	7教区	福城寺
副 部 会 長	佐藤幸悦	3教区	泉流寺
部 員	今野秀平	5教区	雲岩寺

〈 WEB委員会 〉

委 員 長	和田泰雲	3教区	瑞林寺
副 委 員 長	高橋潤一	3教区	瑞光寺

〈 ボランティア委員会 〉

委 員 長	戸沢広悦	6教区	長泉寺
副 委 員 長	山田卓爾	9教区	倫勝寺
委 員	山谷尚智	8教区	龍像院
々	櫻田元康	9教区	鳳来院
々	荻津賢廣	6教区	春光寺
々	福本光佑	1教区	玄心寺

代 議 員	鈴木慶道	1教区	東光寺
々	小澤孝全	2教区	天昌寺
々	矢萩宗淳	3教区	慶祥寺
々	東光隆	4教区	香泉寺
々	村田泰仁	5教区	龍泉寺
々	荻津賢廣	6教区	春光寺
々	遠藤隆治	7教区	徳昌寺
々	山谷尚智	8教区	龍像院
々	櫻田元康	9教区	鳳来院
々	奥山春彦	10教区	浄福寺
々	高田大航	11教区	萬松寺
々	齋藤智弘	12教区	千手院
々	三浦大伸	13教区	永源寺
々	横山智弘	14教区	蚶満寺
々	尾久雄人	15教区	能持院
々	中村智信	16教区	松雲寺
々	櫻田元伸	17教区	向川寺
々	佐藤光潭	18教区	龍泉寺

弁道会

今、仏教とお寺に求められていること
〜現代の僧侶を考えるワークショップ〜



六月二十六日、今期最初の行持である弁道会が開催された。講師は全曹青顧問などを務める倉島隆行師(三重県)と、全国浄土宗青年会で活躍する成田淳教師(東京都)である。冒頭、倉島師からは「宗派を超えて、また葬祭業者も参加したワークショップを行なうと、我々宗侶のような無意識の予定調和がないため、耳の痛い事も聞けて気付きが多い。《何が求められているか》をつかめる」

秋田市の平和公園で、永代使用料一万七千円の合葬墓に申し込みが殺到する様子が大々的に報道された。地元の仏教界はなぜ声を上げないのか?と鋭い御指摘があった。成田師は飄々とした語り口で、「寺院の檀務や風習は、地域差よりも宗派の違いが大きいと感じる」。僧侶は話し過

ぎに注意。法話は五分以上・七分以内に収めるように教えられた。教区の事務もしているが、思い切って僧侶派遣業への参入を進めている」と、これまた受講者を驚かせる取り組みを話された。

次に、事前に編成された五〜六名の班に分かれ、各々に進行役を決めて、《理想の僧侶像・寺院像》はどうあるべきか、意見を出し合った。今回は両師の提案で、寺族・葬祭業者・葬儀司会者・檀家さんにもグループに入ってもらい、忌憚らない意見を述べてもらった。意見は大きな付箋に書いてどんどん貼り付けていく。

「遺族の悲しみに寄り添う。共感力を持つ」。お寺を常に綺麗に保つ。品格は落とさずに、適度に緩さを見せて胸襟を開く。など、誰もが納得するものもあれば、「イメージアシオアのない環境を」。お布施を頂けない時、いかに振舞うか。など、考えさせられる問題提起もあった。

そして、その理想像を実現させるための具体的な方策について、進行役が質問しつつ話し合った。特に葬祭業者のお話は、理想像とは程遠い一部の僧侶がいる現実や、最期に近い家族の財産管理・処分など実務的な経験に裏打ちされ

ており、宗侶という立場の限界を感じずにはいられなかった。寺

に行けば寂しくない!!と思わせるイベントを。葬祭・墓参以外の面を。古くても掃除の行き届いたお寺は気持ちいいが、新しくても東司が残念な状態のお寺もある。お寺の掃除をイベント化するのもアリか。などの意見もあった。個人的にはこの段階での議論が、今回最も有意義だったと思う。

そうやって出し合った方策を進行役が集約し、班としての結論を原稿化して発表した。最大公約的なものになるのは否めず、どの班も大きくは異ならないが、皆が智慧を出し合った過程が重要だったと思う。

成田師がボソッと「班の方々は互いに監視し合って、数年後に理想が実現できているか、折に触れて確かめましょう」とおっしゃっていたが、そうやって初めて今回の弁道会

は実を結ぶだろう。

ところで今回、参考資料として『現代の僧侶』を考える――検討結果資料』『寺院・僧侶に関する生活者の意識調査(平成二十八年十二月実施)』といった冊子が配られた。これらは大勢の対象者に詳細な質問を重ねて綿密な分析を加えた、貴重な資料である。この記事を読んで興味を持たれた方は、是非お読み頂きたい。

(佐々木耕志)



曹青秋田／第87号

発行／秋田県曹洞宗青年会

事務局／羽後町新町字上高寺99 龍泉寺内

発行責任者／赤石基彦

編集責任者／佐々木耕志

秋曹青ホームページ <http://www.sousei-akita.net/>